

第5回みよし未来環境会議 オンライン交流会 かわらばん

2023年11月13日(月)18:00~19:00

会場 三次市役所6階601会議室 (オンライン)
参加者 神田日向、谷藤拓真、白根瑞紀、岩倉伊吹、
梅木亮汰、兒櫻浩介、井上海太
欠席者 下岡快成
ゲスト (株)ユーグレナ 3代目 CFO 渡部 翠
Futureサミットメンバー 今井智紀、趙佳一

第5回では、「サステナビリティ・ファースト」をユーグレナ・フィロソフィーとして掲げるベンチャー企業、株式会社ユーグレナの3代目 CFO、Futureサミットメンバーの3名と「2050年の自分のまちのありたい姿」をテーマにオンライン交流会を行いました。

これまでは講義や視察などインプットに重きをおいてきましたが、今回は自分の思いを語るアウトプットの時間。ユーグレナの皆さんからの率直な質問や自分自身の考えを言葉にする作業を通して、自分自身が気づいていない部分に気づき、考えを深めることができました。自分たちとは違う環境で暮らし、異なる視点をもった同世代との交流は大変な刺激や学びを与えてくれ、このような機会をもっともっと持ちたい、そう思える交流となりました。



環境政策課
三竿より

自分の住むまちや地域を知ること、物事について深く考えることの大切さに気づく交流会となりました。



サステナアンバサダーのことば

自分たちはこのみよし未来環境会議の視察を通して、三次の魅力を発見した。どこの地域にも魅力があるはずなのにみんな知らないだけでは？

三次のいいところは地形。三次は盆地で冬は霧がすごい。霧の海というマイナス部分を観光資源にしているが、そういうのが大切だと思う。

2050年の姿の理想は、生き物と環境の共存。今の三次は環境には力を入れているが、人や生き物にも着目して、それらを売りにできれば。

住んでいる人が地域のことをよく知っているまちになってほしい。ユーグレナから質問されて答えられなかった。自分が住んでいるまちのことを知らないことに気づいた。

まちを歩くと、あいさつを交わす機会が多く、そういうのは人口が少ないまちの魅力。

三次には鵜飼という伝統的な漁がある。2050年に残していくためには今の自分たちが伝えていくことが大切。

環境を良くするだけでなく、良くした先にどうするか、という考え方が大事だと学んだ。

サステナアンバサダーの立場を活かして、いろんな人に三次市の現状を伝えていきたい。

(株)ユーグレナ 3代目 CFO、Futureサミットメンバーからの心に残ることば

自然がきれいとかはどの地域でも言える。その地域にしかないものってそこに住む人たちだから、人こそが地域の魅力だと思う。

ローカルだからこそできること、学生だから集められるデータなどがあるから、環境に配慮したまちづくりをめざすことで、そういう人呼び込めるのでは。

この短い時間でいろんな学びがあって良かった。いろんな地域を見るといろんな考え方を得られる。いろんな所へ行ってほしい。

知ってやってみて改善。三次の環境についての情報を集めて、みんなの思うままに調べてアクションを起こしてみたら素敵な未来になるのでは。

皆(アンバサダー)は、まだ自分が未来でどうなっていたいか、そして今、何をしたいかをもっと考えてみるのも良い。

不便さを強みに変える。(不便益)不便だからこそできることを見つけられたらいいよね。

カーボンニュートラルの実現に向けて、自分の住むまちが未来に対して無関心ではないまちになってほしい。